

国立国会図書館



館長挨拶 新たな中期ビジョン「ユニバーサル・アクセス 2020」

本の森を歩く 第15回 永遠のヒーロー真田幸村

西洋古典籍の保存

一橋大学社会科学古典資料センター主催「西洋古典資料保存実務研修」に参加して

世界図書館紀行 ワシントン大学図書館

数字で見る国立国会図書館

2017.1
No. 669

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み/国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み/国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00			
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30			
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00	13:00～16:30	

■見学のお申込み/国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

C O N T E N T S

02 新たな中期ビジョン「ユニバーサル・アクセス2020」

04 裏紙が伝えた中世 ―新紹介の八条院関係紙背文書写―
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

06 本の森を歩く 第15回 永遠のヒーロー真田幸村

10 西洋古典籍の保存

一橋大学社会科学古典資料センター主催「西洋古典資料保存実務研修」に参加して

17 世界図書館紀行 ワシントン大学図書館

26 数字で見る国立国会図書館

16 本屋にない本

○「本を彩る版画 蔵書票を愛した男 ―蒐集家原野賢吉の軌跡―」

25 館内スコープ

「カレントアウェアネス-R」執筆の舞台裏

30 お知らせ

- 平成28年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム―震災から6年経過した震災アーカイブの進化と深化―
- 音楽・映像資料室と電子資料室を統合します
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

新たな中期ビジョン

「ユニバーサル・アクセス2020」

国立国会図書館長 羽入 佐和子



新年のお慶びを申し上げます。本年が良い年でありますように。

昨年4月に、国立国会図書館長に着任して初めての新年を迎えました。この間、国立国会図書館が、両院の国会議員の方々そして図書館関連の皆様をはじめ多くの方々からご支援とご協力をいただいていることを知り、改めて心から感謝申し上げます。同時に、多くのご期待をいただいておりますことは大変心強く有難く、そのご期待にお応えできますように努めてまいります。

新年度には新たな中期計画を開始することになっています。そこで、改めて国立国会図書館の存在意義について思い起こしておきたいと思います。

まず、国会法には、「議員の調査研究に資するため、別に定める法律により、国会に国立国会図書館を置く」（国会法 第130条）とあります。

そして国立国会図書館法の前文には高邁なその使命が掲げられています。

「国立国会図書館は、真理がわれらを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される。」（国立国会図書館法 前文）

さらにその目的は、「図書館資料を蒐集し、国会議員の職務の遂行に資するとともに、行政及び司法の各部門に対し、更に日本国民に対し、この法律に規定する図書館奉仕を提供すること」（国立国会図書館法 第2条）とあります。

図書館の基盤である図書館資料を考えたとき、質的にも量的にもその在り様が著しく変化している現在、図書館として積極的な対応が必要な時期にあります。このこと

を踏まえて、次期中期計画のためのビジョンのコンセプトを「ユニバーサル・アクセス」と決めました。その意図は次の二点にあります。

一つは、図書館資料への多面的で長期的なアクセスを目指して計画を策定すること、もう一つは、世界的視点でのアクセスを想定することです。

国立国会図書館の主要な役割は、第一には国会活動の補佐、第二に、資料・情報の収集・保存、そして第三には、情報資源の利用提供であり、これは開館以来変わることはありません。次期計画ではこれまでの活動を総括し、これらの役割を十全に果たすために、主に次の四つの視点から活動することに注力します。

第一に、利用環境の視点をとおして、アクセスのしやすさを追求する

第二に、組織力を強化することをめざし、一人ひとりの職員の能力をいかす

第三に、他の機関との連携を推進し、情報基盤を拡大・深化させる

第四に、全館の情報を統合的に発信し、国立国会図書館の基本的役割の理解を得る
着任当初から、職員と直接話し合うことを心掛け、50数回にわたって500余名の職員と懇談してまいりました。職員の声を聴きながら将来の当館の方向を考え、設定したコンセプトが「ユニバーサル・アクセス」です。

国立国会図書館の存在の意義を心にとめて、次期中期計画の下でその役割を果たすことができますように努めてまいりたいと考えています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

国立国会図書館の蔵書から

裏紙が伝えた中世

—新紹介の八条院関係紙背文書写—

木下 竜馬

『根岸武香旧蔵古文書写』
 <請求記号 YR8-N267>

1 八条院暉子内親王 (1137-1211)。鳥羽上皇とその寵姫美福門院の娘。膨大な鳥羽上皇領を相続した大荘園領主であり、平安末期から鎌倉初期に大きな影響力をもった。

2 使用済みの文書が裏紙として再利用され、本来の表面が偶然後世に残ったものを、紙背文書または裏文書という。

3 石井進「源平争乱期の八条院周辺」(同『石井進著作集 第7巻 中世史料論の現在』、岩波書店、2005年、初出1988年)、五味文彦「八条院関係紙背文書群」(『国立歴史民俗博物館研究報告』(45)、1992年)等参照。

4 <請求記号 WA25-37> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1288438>

5 <請求記号 WA25-81> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2607196>

6 1931年に寄贈された、埼玉県の政治家、国学者、考古学者であった根岸武香 (1839-1902) の旧蔵書。古写経、古文書、地誌類などを多く含む。本誌620(2012年11月)号「ある好古家のコレクション 根岸武香と青山文庫—「国立国会図書館デジタル化資料」搭載を契機として—」参照。

7 平頼盛 (1133-1186)。清盛の弟。母は源頼朝を助命したことでも有名な池禅尼。八条院に近く、平家一門のなかでは独自の地位を占め、平家西走の際も京に留まり頼朝に赦免された。八条院関係紙背文書には、文治元年 (1185) 11月23日付と見られる頼盛自筆文書が含まれることがすでに確認されている。

今回紹介する資料は、これまで知られていなかった八条院関係紙背文書¹ 1点の写しである。八条院関係紙背文書は、鳥羽上皇の娘として著名な八条院¹ にまつわる史料群として知られる。源義経や、藤原俊成、平家一門である宗盛、頼盛など著名人の自筆文書を含んでおり、源平合戦のころの中央政界の内情を伝える重要かつ貴重な史料群である。これは、八条院の近臣であった藤原実清・長経父子の手元に残った文書がいったん廃棄され、高山寺 (京都府) の典籍の料紙として使用されたことで現代まで残った紙背文書² と考えられている。裏面の価値が再発見され、いつごろか高山寺から流出した。現在は国立歴史民俗博物館をはじめとした諸機関・個人のもとに分蔵されており、70点ほどの八条院関係紙背文書が確認されている³。国立国会図書館もそのうち8点 (根岸武香旧蔵の『武家文書』⁴ として4点、『高山寺古文書』⁵ として4点) を所蔵していることは既に知られていた。

このたび新たに紹介する文書は『根岸武香旧蔵古文書写』⁶ のなかの1点として伝わった。この資料は、古文書24点の写しからなるもので、写しに対応する原文書のほとんどは根岸武香旧蔵文書 (青山文庫)⁶ にある。八条院関係紙背文書である1月27日付藤原長経書状と5月18日付藤原親行書状も同じく筆写されている。これら2点の原文書と写しを比べると、字配りや筆跡、

墨の濃淡までよく観察されて写し取られている (右ページ参照)。本文書の原文書は、現在の所在は不明だが、その雰囲気や本文書はよく写し取っていると推測される。

本文書の日付は2月16日で年を欠き、差出は「権中納言□盛」、宛先は「八条三位殿」である。「八条三位殿」とは、八条院関係紙背文書の宛先として頻出する藤原実清と推定できる。八条院関係紙背文書のうち2月付の実清宛文書は、いずれも養和2 (1182) 年のものと推定できると考証されているので、本文書も同様である可能性が高い。養和2年2月時点の権中納言在任者で名前に「盛」の字を含むのは平頼盛⁷ と平教盛である。また、本文書に登場する「安摩御庄」は安芸国にある八条院領であり、平頼盛が権利を有していた。以上から、本文書の原文書は、八条院関係紙背文書のひとつであり、養和2年に平頼盛から藤原実清 (ひいてはその背後の八条院) にあてて出された書状と推測される。根岸武香旧蔵文書中の八条院関係文書4点とともに伝来してきたのであろう。

養和2年は源平合戦の只中であり、そのころ八条院と平頼盛という政界の要人が交渉している事実は、大変興味深く、写であるものの重要な史料であることは間違い無い。源平内乱史を明らかにする一史料としての活用が期待される。

(きのした りょうま)

収集書誌部収集・書誌調整課

当館所蔵資料

『高山寺古文書』から



根岸武香旧蔵（青山文庫）

『根岸武香旧蔵古文書写』から

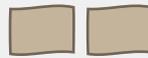


1月27日付藤原長経書状（写し）



5月18日付藤原親行書状（写し）

『武家文書』から



1月27日付藤原長経書状（原文書）
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1287897/1>

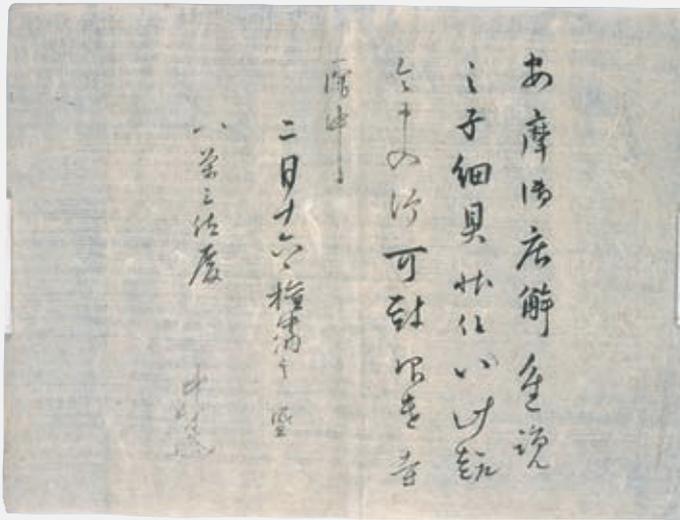
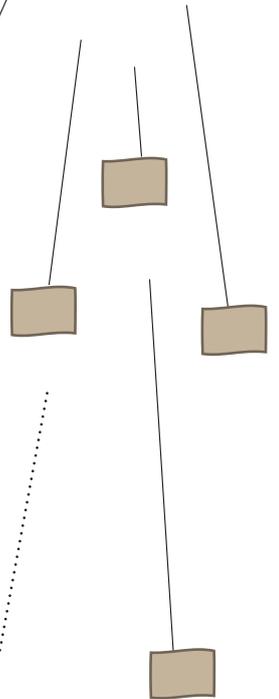


5月18日付藤原親行書状（原文書）
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1287898/1>



八条院関係
紙背文書

散逸し、諸機関・個人で分蔵



対応する原文書は所在不明。
 （現在確認されている70点ほどの八条院関係紙背文書には含まれない）

< 釈文 >

八条三位殿

二月十六日 権中納言□盛
 僧中候（恐々謹言脱カ）

安摩御庄解進覽
 之、子細具状候、以此趣、
 令申入給、可被仰遣寺

< 内容（大意） >

安芸国安摩荘の訴状をお届けします。詳細は訴状をご参照ください。この旨を、あなた（藤原実清）から八条院にお伝えし、寺僧たちに命じていただきたい。

< 解釈 >

詳細は不明だが、安摩荘とある寺とのあいだで争いが起きたので、寺の非法行為を制止するため、荘側が訴状を作成し、八条院に訴えたのであろう。頼盛はこの取次ぎとして、訴状にこの頼盛書状を添えて、八条院のもとに届けたと考えられる。



『絵本難波戦記』
泉竜亭是正 著 明治13
[http://dl.ndl.go.jp/
info:ndljp/pid/884615/9](http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/884615/9)

本の森を歩く

第15回 永遠のヒーロー 真田幸村
林 瞬介

「本の森を歩く」では、国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回ひとつのテーマに沿って蔵書をご紹介します。

昨年、平成28年のNHK大河ドラマ「真田丸」の主人公は戦国時代の武将、真田信繁でした。一般には真田幸村という名前で有名な人物です。

ドラマでは終盤、クライマックスとして大坂冬の陣・夏の陣が描かれました。信繁の名前を後世に知らしめた合戦です。

「真田日本一之兵、いにしへよりの物語にも無之由、惣別これのみ申事に候」——真田信繁を称えるこの有名な言葉は、徳川方の薩摩藩島津家が、合戦の直後に国元に送った書状の一節です（『薩藩旧記雑録』¹）。

真田の名前を伝え広めたのは伝聞や書状だけではありません。仮名草紙『大坂物語』は、大坂の陣が終結した直後に執筆され、古活字本として印刷された作品で、速報性を重んじたニュース出版物のはしりとも言われています。本書は出版を重ねたため多数の版本が知

られていますが、中でも当館が所蔵する版は、内容が大坂冬の陣の講和までで終わっており、実際に講和の直後である慶長20（1615）年正月頃に印刷されたとも言われる最古の刊本です。写真1の箇所では真田左衛門佐（信繁）が立てこもる砦、つまり真田丸に押し寄せた徳川方の軍勢が撃退される様子を伝えています。

このように書状や実録の形で大坂の陣での奮戦ぶりが称えられていた真田信繁を、伝説の名将へと押し上げたのが17世紀後半（1670年頃）に書かれた軍記物語『難波戦記』で、真田信繁の名を「幸村」と記録したのは本書が最初とされています。本書は出版こそされませんでしたでしたが、広く写本として流通し、辻で語られる講談のタネ本にも使われました。

講談の真田幸村物語をベースとして江戸時代の後半にまとめられた『真田三代記』に至っ

1 鹿児島県歴史資料センター黎明館編『鹿児島県史料 旧記雑録後編4』鹿児島県、1984. p. 590.

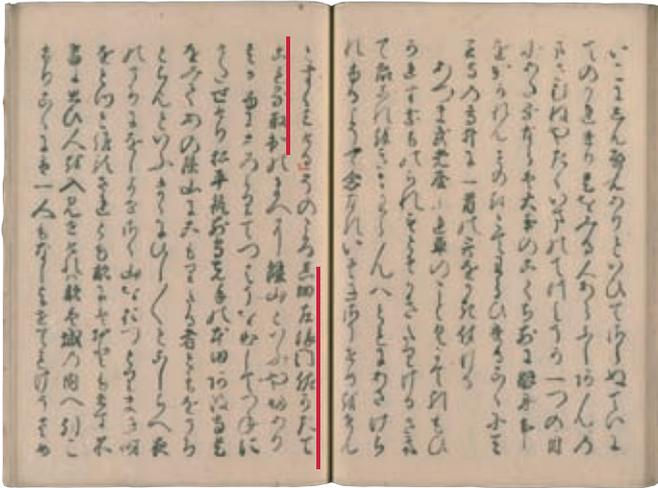


写真1 『大坂物語』 [元和1(1615)]
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2532144/25>
 左頁1行目から2行目に「真田左衛門佐がたてこもる取出(岩)」

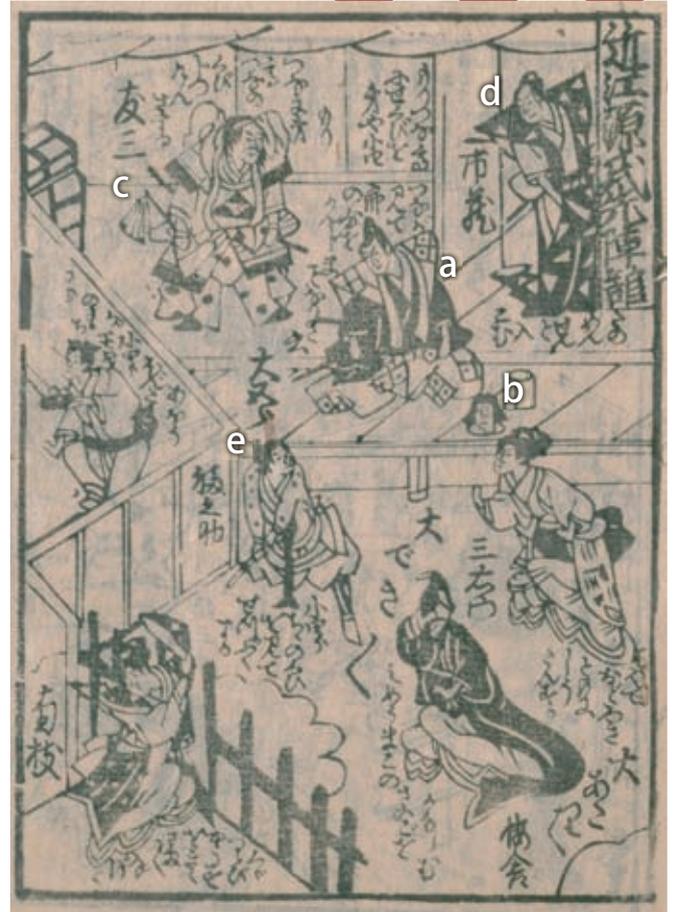
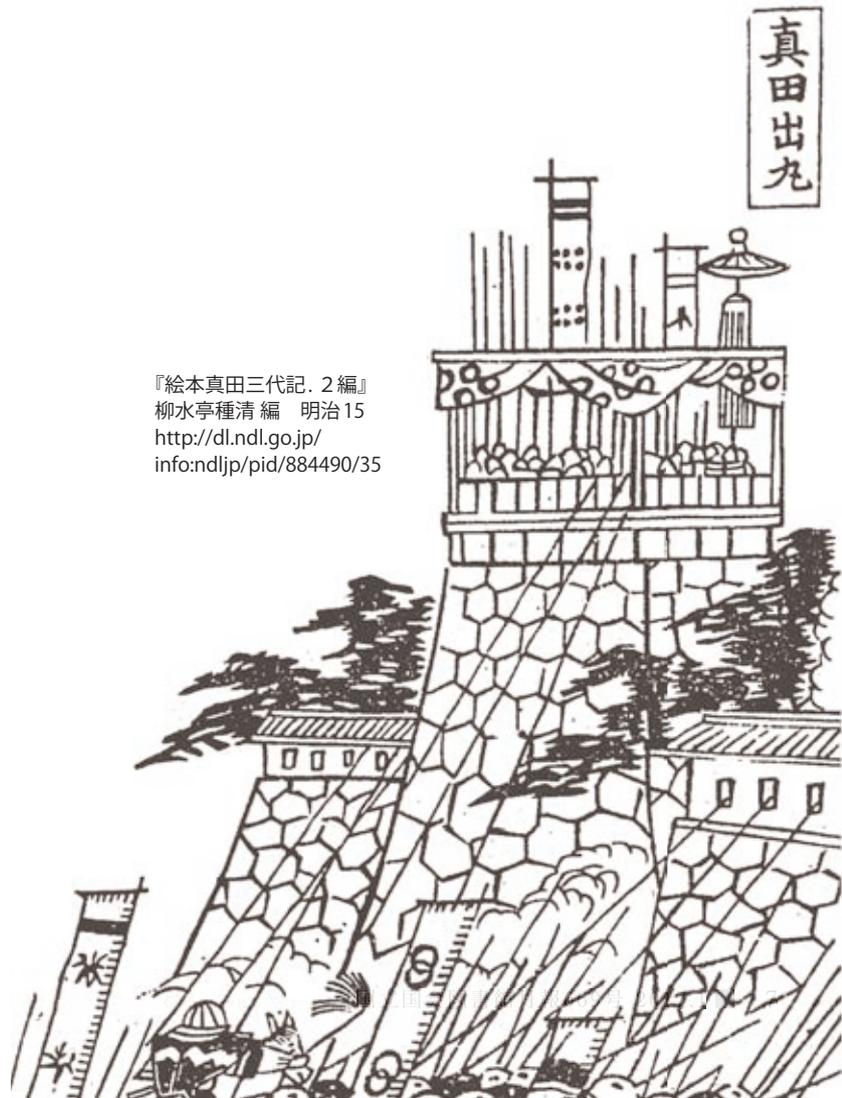


写真2 「近江源氏先陣館」盛綱陣屋の場
 『花楓小倉色紙:中の芝居』 [嘉永5(1852)]より
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541978/3>
 a. 佐々木盛綱(三折大五郎) b. 弟・高綱の首(偽物)
 c. 首実検をする北条時政(中村友三) d. 物陰から
 うかがう高綱の盟友、和田兵衛秀盛(片岡市蔵)
 e. 捕えられた高綱の息子、小四郎(三折福之助)

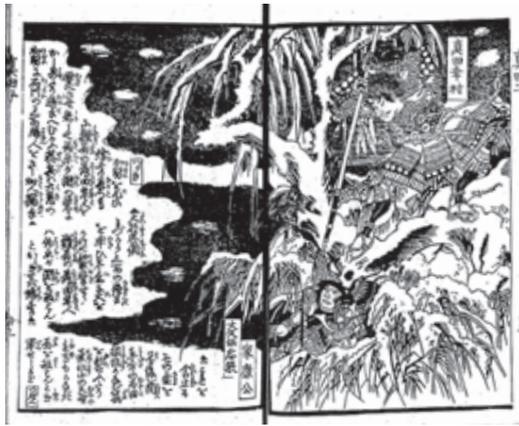
ては、幸村は豊臣家に忠義を貫き、その智謀で徳川軍に連戦連勝する名軍師として描かれています。

この当時、庶民の娯楽の花といえば人形浄瑠璃や歌舞伎などの芝居です。とはいえ、徳川家が登場する芝居の上演はご法度。そこで、豊臣秀頼と徳川家康の合戦を鎌倉時代の将軍源頼家と執権北条時政の対立に仮託し、宇治川の先陣争いで有名な近江源氏の佐々木兄弟を真田信之・幸村兄弟に見立てて、弟と敵味方に分かれてしまった兄・盛綱の葛藤を描いて有名な「おうみげんしせんじんやかた近江源氏先陣館」や、智謀にすぐれた弟・高綱が大活躍する「かまくらさんだいぎ鎌倉三代記」といった作品がつけられました。

写真2は、嘉永5(1852)年に大坂で上演された「近江源氏先陣館」の様子。佐々木盛綱の屋敷に弟・高綱の首(実は高綱の計略で用意された偽物)が届けられ、首実検のために北条時政が訪れた場面(「もりつなじんや盛綱陣屋」)を描い



『絵本真田三代記. 2編』
 柳水亭種清編 明治15
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/884490/35>



『絵本真田三代記. 2編』柳水亭種清編 明治15
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/884490/23>
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/884490/18>



写真3 『猿飛佐助: 真田三勇士』
 (立川長編講談文庫)
 立川文明堂 大正6
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/921823/6>

ています。当時の庶民は、兄と敵味方に分かれてでも主君への忠義を貫き、計略で敵を欺く佐々木高綱の姿に、講談で慣れ親しんだ真田幸村の姿を重ねて芝居を楽しみました。

明治時代になると、真田幸村の物語は幕府に遠慮することなく出版したり、芝居にしたりすることができるようになりました。この頃、幸村は子どもたちにも親しまれたようです。明治11(1878)年生まれの随筆家・寺田寅彦は、少年時代に親から与えられて読んだ作品のひとつとして『真田三代記』を挙げており²、寺田の同級生であった物理学者・桑木彥雄^{あやお}もやはり子どもの頃に買ってもらった『真田三代記』の影響で、真田幸村を尊敬する人物としていたと語っています³。

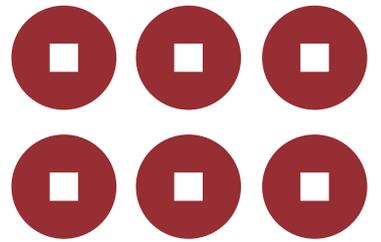
そして当時の子どもたちのあいだに真田幸村の人気を決定づけたのが明治時代末から刊

行の始まった立川文庫です。大阪の講釈師^{たまだぎよくしゅうさい}玉田玉秀齋の語りをもとにした「字で読む講談」は大正時代に大流行しました。立川文庫では『真田三代記』にも登場する幸村配下の忍者、猿飛佐助、霧隠才蔵らを個別に主人公とする物語が新たに創作され、佐助ら「真田十勇士」を率いる老練の名軍師・真田幸村のイメージを確固たるものにします(写真3)。

昭和時代には、真田幸村と十勇士の活躍は何度も映画や児童文学、時代小説、歴史漫画の題材になりました。名の知られたところでは、山岡荘八、尾崎士郎、村上元三、柴田錬三郎、司馬遼太郎といった人気作家が真田幸村と十勇士を主人公する作品を手掛けています。一方で、井上靖の短編集『真田軍記』(写真4)では十勇士の荒唐無稽なエピソードをあえて採用せず、史料に取材して真田一族の物語を淡々と描きました。

2 寺田寅彦『科学と文学』角川書店, 1948. p. 241.

3 桑木彥雄「真田三代記」『文芸春秋』17(17), 1939. p. 14.



(立川文庫・立川長編講談文庫)

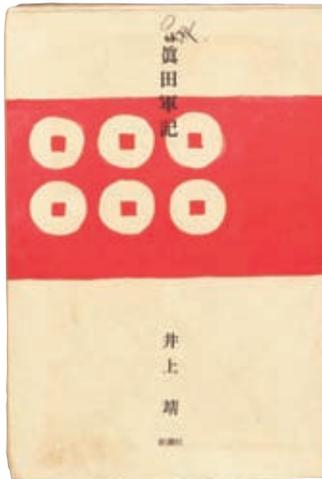


写真4 『真田軍記』
井上靖著 新潮社 1957
<請求記号 913.6-1472s8 >



写真5 『真田太平記』池波正太郎著 朝日新聞社 1974-1983
<請求記号 KH177-61 >

池波正太郎の『真田太平記』(写真5)は、真田家配下の忍者の活躍は描かれるものの、十勇士は登場させずに史実を物語のベースにした長編大作小説です。『真田太平記』は昭和60(1985)年にNHKでドラマ化もされており、この作品で描かれた若く精悍な真田幸村は、以降の幸村像に大きな影響を与えたのではないのでしょうか。

この頃から登場した新しいメディア、テレビゲームにおいて真田幸村は上杉謙信などと並ぶ最強の武将に設定され、顔も美男子に描かれました。

近年人気を博した『戦国無双』(平成16年～)と『戦国BASARA』(平成17年～)は別々のメーカーが開発したテレビゲームのシリーズ作品ですが、ふたつとも、主要な戦国武将として選ばれてパッケージに登場するキャラクターは真田幸村で、槍を武器に敵をなぎ倒す勇猛果敢な若武者に描かれていました。

もともと、時代を経てメディアが新しくなり、真田幸村のイメージが移り変わっても、義に厚く、弱きを助け強きをくじき、志半ばに戦場に倒れる幸村の姿は、人の心を打つことに変わるところはありません。

伝説の名将、真田幸村は21世紀にもさまざまなメディアの作品に繰り返しあらわれ、日本史を代表するヒーローとして語り継がれていくことでしょう。

(はやし しゅんすけ

調査及び立法審査局議会官庁資料課)

○参考文献

- 飯塚友一郎『歌舞伎細見』第一書房、1926.
- 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、1977-1978.
- 日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』岩波書店、1983-1985.
- 大曾根章介[ほか]編『日本古典文学大事典』明治書院、1998.
- 河竹登志夫監修. 古井戸秀夫編『歌舞伎登場人物事典』白水社、2006.
- 古典遺産の会編『戦国軍記事典. 天下統一篇』和泉書院、2011.

今回紹介した資料、画像のうち、URLが付してあるものは、いずれも「国会図書館デジタルコレクション」から全文を閲覧することができます。



国会図書館
デジタルコレクション
<http://dl.ndl.go.jp/>



西洋古典籍の保存

一橋大学社会科学古典資料センター主催
「西洋古典資料保存実務研修」に参加して

はじめに

国立国会図書館（以下「NDL」）の古典籍資料というと、和綴じ本や巻物などの和書をイメージされる方が多いでしょうか。NDLでは洋書も多数所蔵しています。西洋の製本技術によって作られた書籍は、構造や材料、劣化の状態も和書とは大きく異なります。

NDLではこれまでも西洋古典籍の保存に取り組んできましたが、外部の専門機関独自のノウハウを学び、新たな手法の適用を検討するため、一橋大学社会科学古典資料センター（以下「センター」）が主催する西洋古典資料保存実務研修に参加しました。

カリキュラム

センターには保存修復事業の拠点として貴重書保存修復工房（以下「工房」）が付設されており、資料を長期的に保存するための様々な方策を実施しています。ここでは、実習で取り組んだ主なものを紹介します。





1. 劣化調査

工房では修理を始める前に、資料一点ごとに状態調査を行います。この調査は、現時点での製本構造や素材、劣化状態について、専用の「カルテ」に詳細に記録すると同時に、その資料を保存していくためにどのような処置が必要かを判断する重要な作業です。また、修理作業後には処置内容も併記し、資料に関するあらゆる情報を後世に残すようにしています。本研修でも同センターの所蔵資料約 100 点（うち練習用 40 点）の調査を行い、製本構造の時代の変遷や、それに伴う劣化損傷の実例を学びました【写真 1】。

また、調査と並行してクリーニングも行います。ほこりはカビ発生の原因にもなるため、清潔な状態に保つことが劣化の予防につながります。作業の際は資料の状態に注意しながら、マイクロファイバークロスや

柔らかな刷毛で丁寧に汚れを払っていきます。

2. 修理

劣化調査の後、破損状態に応じて修理を行います。修理にあたっては、「必要最低限の処置」と「原装の維持」が基本となります。中身の文字情報だけでなく、資料そのものに使用されている素材や綴じの構造、装丁といった媒体自体が持っている歴史的情報も含めて維持した上で、利用可能な状態に回復させることが理想です。そのため、修理は必要以上に手は加えず、また補修に使う材料も、必要に応じて除去可能なものが望まれます。工房では紙資料を補修する際、和紙とでんぷん糊を使用します【写真 2】。でんぷん糊は接着後も水分を与えれば取り除くことができるため、長期的な保存に適した材料です。また、付加した材料が資料に悪影響を及ぼすことがな





いよう、品質が長期に維持されるものを選択することも重要です。

実習では、破れたページの補修に加え、傷んだ革を保護する保革作業を体験しました。革の劣化の一つに、経年により次第に表面が粉状化する「レッドロット」と呼ばれる現象があります。そのような状態に陥った資料には、劣化の進行を抑制し、表面を保護するために専用の溶液を塗布します。実習ではサンプル資料を用いて、エタノールで希釈したヒドロキシプロピルセルロースを塗布して表面の粉を定着させ、その上からさらに保革油を塗りこみ、最後にアクリルポリマーでコーティングする方法を体験しました【写真3】。なお、資料によっては保革油を塗ることで革が極端に変色する場合があるため、

処置の際は慎重な判断が必要です。また、油分の酸化による資料への影響も考慮し、工房では保革油の使用は現在は積極的には行っていないとのことでした。

3. 保存容器の作成

ページの破れのような軽度の破損については前述のような方法で補修しますが、製本構造自体に破損が生じている資料には、原裝維持の方針にのっとり最小限の処置を施し、保存容器に収納します。状態の悪い資料も、適切な保護材を使用することでさらなる破損を予防できます。資料と接する材料は全て中性のものを使用し、個々の資料の形態・状態に合わせ、箱型やフォルダタイプなど各種の保存容器





を作製しているとのことでした【写真4】。実習では中性紙製のジャケット、保存箱の他、閲覧時の補助具となる書見台を作製しました【写真5】。

4. 虫害対策—低温殺虫処理、清掃

虫害対策として、工房では大型冷凍庫を利用した低温殺虫処理法を実施しています。資料を一点一点薄手の中性紙に包んでビニール袋に入れ、マイナス40℃の冷凍庫に1週間保管することで資料内部に潜む虫を駆除するというもので、薬剤を使わず、また資料にも大きな負荷を与えずに処置できる点が魅力です【写真6】。

また、書庫内環境を整えることも重要な保存対策の一つです。センターでは月に一度、工房スタッフ

全員で書庫内の点検・清掃を実施し、適切な環境の維持に努めています。

おわりに

実習で扱った資料はいずれも発刊から100年、200年を経過した貴重な資料であり、本物に触れながら過ごした時間は筆者にとって有益な経験でした。専門機関で長年培われてきた技術を、NDLの所蔵資料の保存にも役立てていきたいと思えます。

最後に、ご指導を賜りました一橋大学社会科学古典資料センターの皆様、一橋大学附属図書館の皆様に、心より感謝申し上げます。

ひろかわ あすな
(廣川 明日菜 収集書誌部資料保存課)



一橋大学社会科学古典資料センターは、一橋大学の前身である商法講習所(明治8(1875)年創立)以来蓄積してきた貴重な西洋古典籍を集中管理し、高度な社会科学研究に資するために、同大学附属図書館から独立した貴重書専門図書館として設立されました。蔵書数は約7万5千冊(平成28年9月現在)に及び、世界的に著名かつ重要なコレクションを多数所蔵しています。センターに付設された貴重書保存修復工房では、専門スタッフによる所蔵資料の調査・修理作業が日々行われています。

工房では、平成28年度から3か年の計画で、「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を開始し、西洋古典籍を所蔵する大学等図書館等から実務研修生を受け入れています。

実習を通じて保存修復に関する専門的な人材を育成すると同時に、資料保存担当者の国内ネットワークを構築し、国内全体における保存水準の底上げを図ることを目的とするものです。ご興味のある方は、ホームページをご覧ください。

<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/training.html>



1. 綴じ

本の中身（本文紙）を作る方法として、西洋では折丁（複数枚の紙を重ねて折られた本文紙を構成する一単位）を針と糸でつなげていくかがり綴じが主流でした。時代や地域によって、綴じ方にも特色が見られます。写真1-②はかがり台を使って、芯材となる背綴じひも（革ひもや麻ひもなど）に綴じ糸を巻きつけながら一折りずつ綴じているところです。革装本によく見られる背のふくらみは背綴じひものでっぱりによるもので、「背バンド」と呼ばれます。



2. 花布（はなぎれ）

現代の一般的な製本では本文紙の背の両端に貼られている飾り布を指しますが、本来は折丁をつなぐ綴じの一部でした。写真2-②は、芯材に糸を巻きつけながら花布を編んでいる様子です。綴じと同様に、時代とともに様々な編み方が生まれました。



3. 革

現代では、表紙の素材としては紙や製本用クロスが一般的ですが、西洋では板や紙、布の他に、長らく革が用いられてきました。革にも子牛や羊、ヤギなど豊富に種類があり、加工方法も様々です。また、それぞれに質感や風合いが異なります。

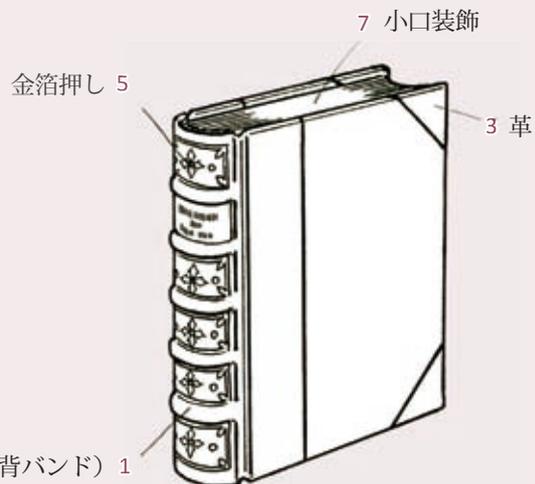


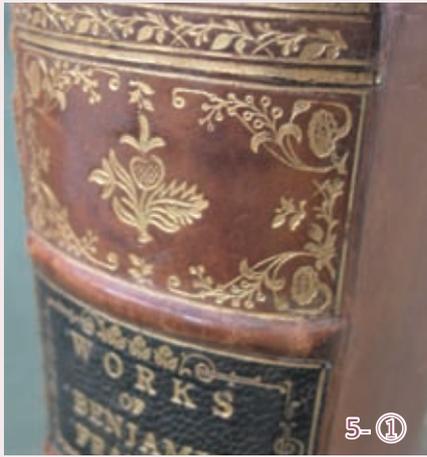
4. プリンターズ・マーク

タイトルページや巻末ページには、しばしば独特な図柄が印刷されているものがあります。印刷を手掛けたことを示す印刷所固有の商標であり、いつどこで出版されたものかを示す手がかりにもなります。

西洋式製本の特徴

西洋の古い書籍には、現代の一般的な製本とは異なる特徴的な素材や構造を見ることができます。機械産業が発達するまでは、本はすべて手作業で綴じられていました。ここでは近世の西洋式製本の装丁に見られる主だった特徴を紹介します。





5-①



5-②

5.金箔押し

華やかな金の装飾も大きな魅力の一つです。熱した押し型で革にしっかりと空押ししてから、定着液を塗って金箔を固定し、さらに上から型押しすることで金箔を表面に定着させます。熱の加減によって仕上がりが左右される高度な作業です。また、押し型にも様々な形や紋様があり、互いに組み合わせることで美しい装丁を生み出します。(写真5-②)



6-①



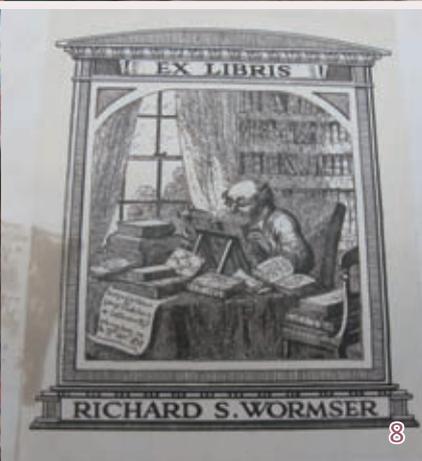
6-②

6.マーブル紋様

西洋古典籍の中には、見返し(本文紙を保護し、また表紙と本文紙のつながりを補強する厚手の紙)や表紙にマーブル紙が使われているもの多く見られます。ゲル状の溶液の表面に絵の具を垂らして模様を作り、紙に写し取ることで出来上がります。それぞれが一点ものであり、写真6-①のように、不規則な柄のものや意匠を凝らしたものなど、職人によって様々なデザインが作られています。



7



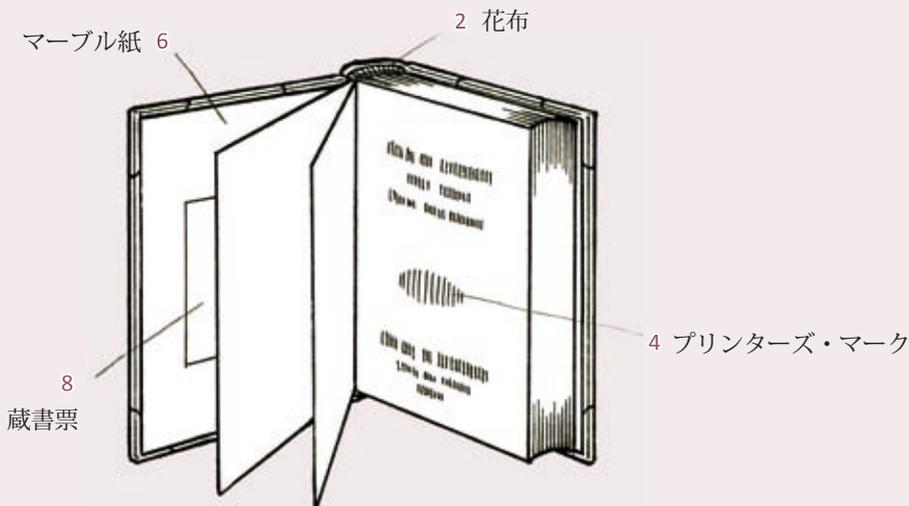
8

7.小口装飾

書籍の装丁の一つに、小口(本文紙が露出している3面)の装飾があります。金つけ(金箔を貼る技法)やマーブル紋様をあしらうことで、華やかさを加えるだけでなく、本文紙のすきまから埃が入ることを防ぐ役割も担っています。

8.蔵書票

活版印刷技術の発明を機に書籍が普及しだすと、その本の持ち主を示す蔵書票が生まれました。多くの場合、所有者の名前とともに独自の図柄やモチーフが組み込まれています。著名な画家の手によるものもあり、多くのコレクターの心をつかんでいます。



本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

本を彩る版画 蔵書票を愛した男 —蒐集家原野賢吉の軌跡—

関西学院大学博物館 編・刊
2015.10 59p 26cm

<請求記号 UM57-L2>

本を開けば繊細に描かれた蝶が舞い、茜色に染まる水辺が広がります。彩り豊かな版画を並べた画集のようにも見えるこの本は、2015年10月から12月にかけて、関西学院大学博物館にて開催された展覧会の図録であり、原野賢吉（1922～2014）の蔵書票コレクションを紹介するものです。

見返しや遊び紙に貼り付けられた、書物の持ち主を示す小さな紙片——エクス・リブリス（EX LIBRIS）とも呼ばれる蔵書票は、15世紀のヨーロッパで生まれ、時代の経過とともに趣向を凝らしたものが作られるようになりました。図柄や絵、金言などが美しくデザインされた蔵書票は多くの人々を惹き付けましたが、それらの多くは銅板や木口木版による、単色のものでした。

しかし日本では、明治期に伝えられた後、多色木版や型染など様々な技法によって作られるようになり、独自の発展を遂げていきます。たとえば、色とりどりの花が染め抜かれていたり、人の表情までが細密に刷り込まれていたり…。本書が紹介する蔵書票をじっくりと眺めれば、紙の質感や染料、技法の違いを感じることができます。

企業経営の傍ら版画蒐集を行っていた原野氏は、このような「小さな版画」にのめり込んでいきました。氏は蔵書票を蒐集するだけでなく、自ら制作を手がけることもあり、また、作家の発掘や関連書目の編集に励むなど、蔵書票愛好界全体の発展のため

に心を砕きもしました。それが本来の役割から離れ、独り歩きしてしまうことを危惧した愛書家も過去にはいましたが、原野氏はむしろ、蔵書票そのものをひとつの芸術ジャンルとして愛したのです。



本の管理のために便宜上生み出されたものが、独自の豊かな世界を作り上げていったというのは大変興味深いことです。そうして蔵書票のこれまでにについて考えているうちに、ふと「デジタル化が進む現代において、蔵書票はどうなっていくのだろう？」という疑問が浮かびました。蔵書票は、元を辿れば所有を表すためのもの。しかし、電子書籍が一般化すれば、「本を持つこと」は単一のデータへのアクセス権を意味するようになるでしょう。記憶の染み込んだモノである本と人との一対一の関係は、過去のものになりつつあるのかもしれませんが。

対して本書は、ごく小さな版画の一枚一枚にまで向けられた原野氏の熱意と、その人となりを読者に伝えます。大切な手紙に貼る切手のように、蔵書票にはそれを形にした作家、貼られた本、そして本の持ち主にまつわる思い出があるのです。

手触りある本と共に積み重なってきた記憶の象徴ともいえる蔵書票は、デジタル化が進む今を暮らす私たちの眼にはいっそう鮮やかに、懐かしさをもって映じます。

（収集書誌部国内資料課 おおくぼ れい 大久保 玲）



世界図書館紀行

ワシントン大学図書館

東川 梓



1



2

本稿では筆者が約2年間の長期在外研究中に
通い、ボランティアの学生スタッフとしても関
わったワシントン大学図書館をご紹介します。
ワシントン大学における長期在外研究につい
ては国立国会図書館月報の662（2016年6月）
号、同じワシントン州にあるシアトル公共図
書館については同660（2016年4月）号をご
覧ください。

ワシントン大学図書館

ワシントン大学（UW）は1861年に創立さ
れた米国北西部最大の州立大学です。遠くに
レーニア山(写真1)、近くにユニオン湖(写真2)
があり、四方を緑で囲まれ、春には桜が咲き
乱れる、米国でも評判の美しいキャンパスで
す。

UWの図書館は、大小含めて16館あり、
どの図書館も自由に誰もが利用することがで
きます。中でもスザロ図書館は、図書館を紹

介する雑誌特集などにおいて「世界で最も美
しい図書館」や「ハリー・ポッターに出てき
そうな図書館」として紹介される、UWの図
書館でも最も人気のある建物です。UWのみ
ならずシアトルを象徴する建築物の一つで、
世界中から観光客が訪れる名所になっていま
す。

<スザロ図書館>

スザロ図書館はUW図書館の本館として、
また大学院生用の図書館としての役割を果た
しています。

1915年にヘンリー・スザロ氏（Henry
Suzzallo）がUWの第15代学長に任命された
時、彼は新しい図書館の建設を最優先事項
として取り組みました。彼の指揮のもとで
1922年から「大学の核となる図書館」を作
る本格的な計画が始まりました。

カール・ゴールド氏（Carl F. Gould）¹と

¹ <https://www.washington.edu/research/showcase/1914a.html>



3

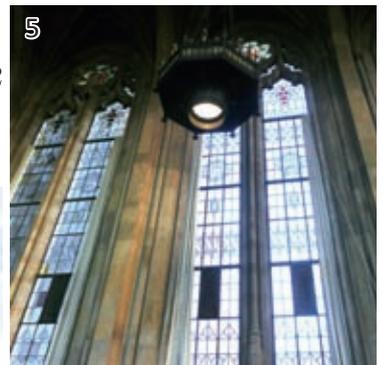


チャールズ・ベップ氏 (Charles H. Bebb) という二人の建築家によって設計され、1923年に着工されました。アメリカの伝統校の多くに見られるカレッジ・ゴシック様式が採用されています。1926年に、有名な読書室を持つ西側の棟 (写真3) が開館し、さらに1935年には南側に2棟目 (写真4) が完成しました。

パリのサント・シャペル (Sainte-Chapelle) を模しているとも言われる西側の建物には、キャストストーンとレンガを組み合わせた外壁に11枚の豪華なステンドグラス (写真5) が嵌められ、テラコッタで作られたゴシック調の18体の像やアーチなどがガラスの周囲を縁どっています。ステンドグラスには中世からルネサンス期にかけて活躍した印刷工房の28種類のウォーターマークがデザインされています。

1階

UWの中心、レッド・スクエアから厳かな雰囲気がある入口を入ると、右手側にはカフェ、スザロ・エスプレッソ (Suzzallo Espresso) (写真6) があります。図書館内で気軽に軽食をとることができるので、パソコンでレポートを書きながら、コーヒーを飲む学生で連日賑わっています。入口の正面には受付 (写真7) があり、図書館全般の案内を行う職員が常駐しています。奥に進むと文具の自動販売機や端末が並んでおり、授業前に資料のスキャンやレポートのプリントアウトをする生徒で混雑しています。UW図書館では日本の大学図書館にあるようなコピー機は無く、複写をしたい時は資料をスキャナーで取り込み、そのデータをプリンターで印字します。先に進むとレファレンス・カウンター「Ask Us!」 (写真8) があります。ここには2つの小さなカウンターがあり、一方には司書、



もう一方には図書館情報学専攻の大学院生が座ることが多く、利用者のレファレンスに気軽に答えています。対面式のレファレンス以外にもUW図書館ではメールやチャットのレファレンスにも24時間対応しています。利用者が閲覧したい箇所を事前に申請すれば、職員が代わりにスキャンしたpdfファイルを無料で送信してくれるデジタル複写サービスも提供しています。さらに先に進むと資料の貸出カウンターがあります。ここで予約したUW図書館の資料やILL（図書館間貸出し）で取り寄せた資料を受け取ることができ

ます。貸出点数には制限がなく、貸出期間も資料によっては数か月と長く、更新手続きもオンラインで気軽にできます。また、大概の場合、ILLの取り寄せは無料です。雨の日には本が濡れないようにUWのマスコットであるハスキー犬と本がデザインされたUW図書館特製の袋に入れて渡してくれます。

読書室

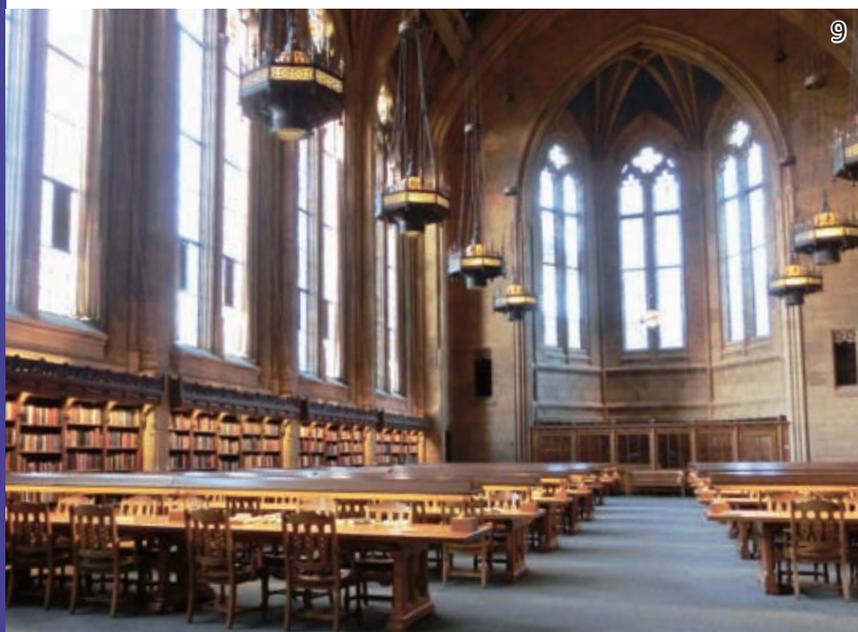
3階には天井までの高さが65フィート（約19メートル）、幅が52フィート（約15メートル）、長さが250フィート（約76メートル）の、全米で一番蔵書数の多い読書室（写真9,10）を備えています。スザロ図書館では唯一、室内での私語が禁止されており、静寂が保たれている空間です。

ゴールド氏によってデザインされたオークの机と椅子（写真11）は重厚な雰囲気を出しています。本棚の上部にあるオークでできた帯状の彫刻（写真12）には、地元の自然をイメージしたさまざまな樹木の模様がデザインされています。読書室の両端には手塗の鮮やかな地球儀（写真13）が天井から吊るされています²。

長年愛されてきた³この美しい読書室は、自習以外の目的でも利用されています。クリスマス頃には、図書館員の有志で結成された合唱団がこの荘厳な読書室でクリスマス・キャロルを披露します。筆者もこの合唱を職員と聴いてから、事務室で色鮮やかなアメリカ流のクリスマスケーキを食べてお祝いをしました。また、毎年入学式の前には、UW全体の同窓会が開かれ、この読書室はパーティ会場として使われます（読書室で勉強していた筆者は追い出されてしまいました）。

² <https://www.lib.washington.edu/suzzallo/sandbox/collages/visit/about#section-6>

³ <http://www.washington.edu/alumni/columns/sept02/backpages.html>





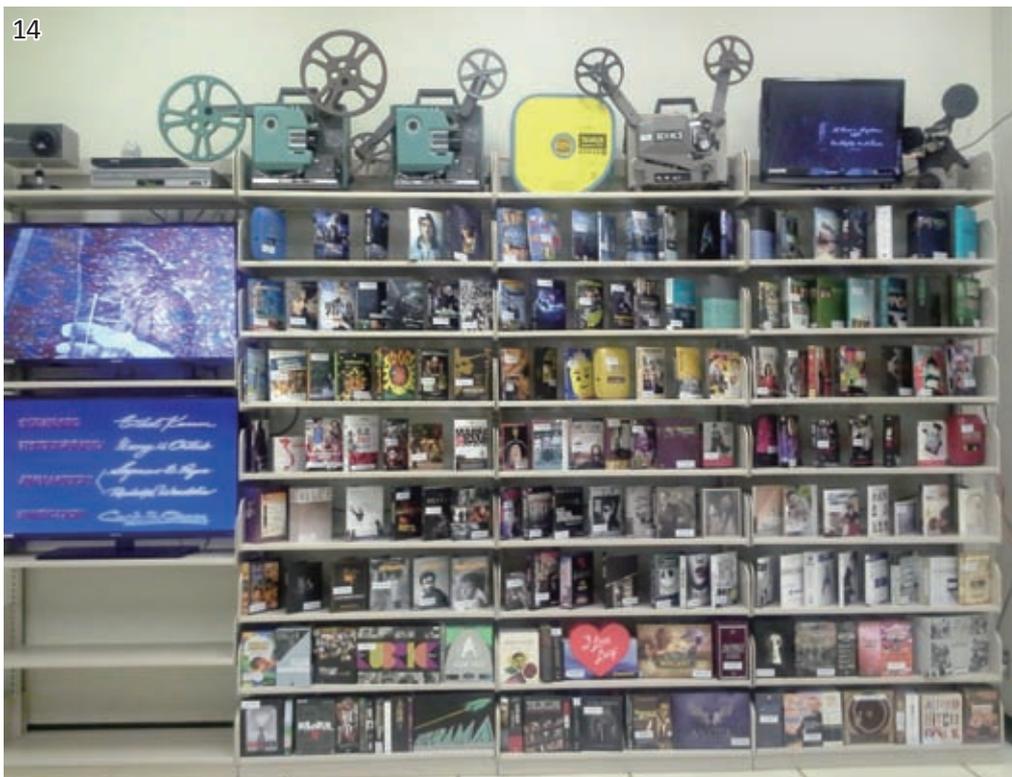
この読書室と同じ階にはメディア・センター（写真14）があります。ここでは映像、音楽、ゲームなどの資料を扱っています。この中にあるメディア・アーカイブという部屋には古いフィルム映写機からプレイステーションまで、あらゆる再生機器も設置されています（写真15）。映画のDVDも米国のみならず、世界中のものを所蔵しています。各国の資料はそれぞれの言語を理解する職員や学生アルバイトによって整理作業が行われていて、筆者もボランティアとして日本語のドラマや映画のDVDの書誌を作成する作業を毎週行っていました。一日中書誌を作成する作業は腰に負担がかかるため、立ったまま入力できる端末を使用している職員もいました。

さらに同じ階にはたくさんの自習室があります。この自習室には端末、ホワイトボード、モニターが備わっており、グループ研究等のため多くの学生に利用されます。一日2時間までの利用についてオンラインで予約することができます。この自習室に限らず、オンラ

インでキャンパス内の自習室を予約することができるスペース・スカウトというサービスが学内で提供されており、アプリから自分の近くにある空室を探して事前に予約しておくことができます。

この奥にはピーターソン・ルーム（写真16）と呼ばれる会議室があり、ここでは各種催し物が開かれます。筆者も2回この部屋を訪れる機会があり、1回目は年に一度開催される図書館情報学専攻学生による図書館長を囲む昼食会、2回目は図書館の学生スタッフ感謝週間のパーティでした。感謝週間は、図書館で働く学生アルバイトを労うために、約1週間にわたって開かれるものです。この期間中、職員から様々なプレゼントや感謝のカードが渡され、筆者も手作りのケーキやクッキーなどをいただきました。

14



15



16



日系人コレクション

地下には特別コレクションの書庫があります。特に日系人関係のコレクションが有名で、中でもシアトル・カメラ・クラブの写真が人気です。UWの東アジア図書館に勤務していた松下巖氏は、戦前から写真を趣味とし、小池恭氏らとシアトル・カメラ・クラブ（1924-1929）⁴を作り、日常の風景から芸術性の高い写真まで幅広く撮影しました。松下氏はその写真コレクションを1970年代にUW図書館に寄贈しました。後に展示会も開かれ、現在は電子展示会も公開されています⁵。筆者は毎週ボランティアとしてこのシアトル・カメラ・クラブのコレクションを整理する作業を行い、当時の日系人たちの生活を垣間見えました。

4 <http://www.lib.washington.edu/specialcollections/about/past-displays/the-seattle-camera-club>
5 <http://content.lib.washington.edu/exhibits/shadows/>
6 <http://www.lib.washington.edu/commons/about>

<アレン図書館>

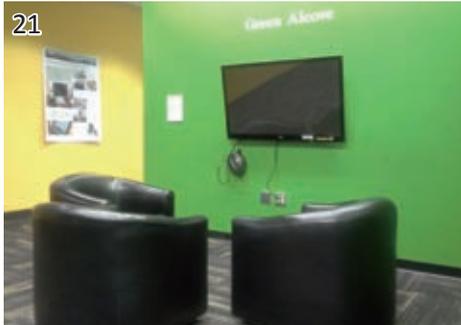
1991年にはスザロ図書館の南側の建物と繋がるようにアレン図書館（写真17）が建てられました。アレン図書館は、1960年から1982年までUW図書館の司書であったケネス・アレン氏（Kenneth S. Allen）の名前を

とったもので、彼の息子でマイクロソフト社の共同創業者でもあるポール・アレン氏（Paul Allen）が1,000万ドルを寄付したことにより作られました。

アレン図書館の北側の地上階には展示スペース、自習用端末、小さな講堂があります。展示スペース（写真18-20）では毎月のように図書館資料を使ったユニークな展示が行われています。日本人の画家や江戸時代の古地図を紹介する展示も行われていました。筆者が見た中では韓国の漫画に関する展示が印象的でした。韓国人留学生が展示スペースに昔の韓国の貸本屋を再現した小屋を建てて、そこに寄贈された韓国の漫画を並べて展示していました。小さな講堂では図書館に関連するイベント以外にも、映画の上映会や雅楽の演奏会まで、毎日のように何かの催しが開かれています。

リサーチ・commons

アレン図書館の南側の地上階にはリサーチ・commons⁶（写真21,22）が設けられています。お洒落な空間に様々な形態の部屋があ





り、授業ができる大きな教室からソファでくつろげるオープンスペースまで、事前に予約をすれば2時間使用することができます。筆者もUWの古文書研究会に参加していた際に、ここで毎週小さな個室を借りて、日本学専攻の大学院生たちと一緒に勉強しました。このリサーチ・コモンズの一角には大学院生の研究を支援するために、研究助成金の相談カウンターや学会ポスターなどの発表資料のデザインの相談カウンターもあります。これらは学生バイトが運営しており、例えば工業デザイン専攻の大学院生がポスターのデザインのアドバイスをしてくれます。さらにリサーチ・コモンズでは大学院生の研究を促進するために研究者スタジオというイベントも開催しています。この研究者スタジオは一学期に一つのテーマを掲げ、そのテーマに沿った内容を発表して議論するイベントです。発表者の多くが博士課程の学生で、様々な視点からそのテーマを捉えた発表を行います。例えば「水」というテーマがあれば、環境学、文学、ロボット工学などの分野の学生が、水に関連する自身の研究を発表します。

学会での発表を前に、練習する機会としてこのイベントに参加することが多く、他の分野の研究者たちと議論して、内容をさらに磨き上げることができるので喜ばれています。

<オデガード図書館>

学部生用には1972年に設立されたオデガード図書館(写真23-26)があります。1958年から1973年までUWの学長であったチャールズ・オデガード氏(Charles E. Odegaard)の名をとり、総合大学における大学生のニーズに応える図書館として建てられました。2013年には美しく機能的に改築され、2014年のアメリカ建築家協会のInstitute Honor Awards for Interior Architectureを受賞しています⁷。

このオデガード図書館は24時間開かれており、大学生の学習支援を中心としたサービスが提供されています。356台の端末席とプリンター・スキャナーが用意されているコンピューター・ラボ(写真27)が2階にあります。図書館内のWi-Fiも整備されており、職員によるIT支援やPythonなどのプログラミ

⁷ <http://www.lib.washington.edu/ougl/about>

23



24



25



26



27



28



29



ングを始めとする情報リテラシー教育が行えるラーニング・commonsも配置されています。ITに関する相談窓口やオーディオの編集スペースや3Dプリンター(写真28)などもあり、新しいテクノロジーを使える環境が充実しています。特徴的なのは学生の論文執筆を支援するライティング・センター(写真29)を備えているところです。学生の論文作成以外にも、発表原稿や就職活動用の履歴書作成まで、幅広く文書の校正に関するアドバイスを提供しています。毎日朝9時から夜9時まで、職員と文書校正を得意とする学生アルバイトが全ての学生に対して無料で指導を行っています。週3回までなら指名も可能であり、筆者もレポートなどの課題を提出する前に同じ専攻の学生アルバイトのアドバイスを受けていました。

おわりに

今回、改めて振り返ると、UW図書館無くしては、筆者は大学院での研究を達成し得なかっただろうと思います。アレン図書館のリサーチ・commonsで研究仲間と打ち合わせをして、ILLでリクエストした本やオンラインで届くpdf化された文献を静かなスザロ図書館の読書室で読み、夜ご飯をスザロ・エスプレッソで食べ、24時間開いているオデガード図書館に籠って夜中までレポートを書き、翌朝ライティングセンターで文書の添削をしてもらい、自習室でクラス発表の練習を行って、当日の授業で発表する、そんな毎日を過ごしていました。ビデオ編集、ポスターデザイン、Rなどのプログラミングまで、研究に必要な知識もUW図書館で教わりました。

UW図書館は大学の学術情報基盤の中核を担っており、利用者にとって最適な情報環境を提供しています。このようなUW図書館で

も、過去に利用者の減少を経験しました。そのため利用者のニーズに沿った図書館サービスを再検討し、そこで求められているのは実質的な図書館サービスの改善であることに気付きました。試行錯誤的にILLの強化や資料のスキャンサービスなどを導入した結果、再び多くの学生が図書館を使用するようになりました。筆者も日本にいた時と違い、必要な文献を素早く入手することが出来たおかげで、効率的に大学院での研究を進めることが可能でした。このようなUW図書館での経験から、利用者が必要かつ適切な情報にアクセスできるように、国立国会図書館もより多くの人が便利であると実感できる図書館サービスの改善をすることが求められているのではないかと身を持って感じました。

今回はUW図書館の一部の建物やサービスをご紹介しましたが、タコマ空港からも、シアトル市内からも電車で直接アクセス可能なシアトル・キャンパスには、まだまだ他にも多くの素敵な図書館が点在しています。この原稿を読んだことをきっかけとして、実際に訪問していただけると嬉しいです。

なお、今回の執筆にあたりUW大学図書館の立花さおり氏にお世話になりました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

(ひがしがわ あづさ

国際子ども図書館資料情報課)

※この記事は2016年11月の情報に基づいています。

「カレントアウェアネス-R」執筆の舞台裏

図書館について国内外の情報を発信する「カレントアウェアネス・ポータル」は運用開始から10年が経過し、情報発信のみならずアーカイブとしての性格が強まっています。そうした変化に伴い、当系の職員が執筆する「カレントアウェアネス-R」では、ニュースを速報するだけでなく正確さや過去記事への参照も重視しています。

係員は毎日、RSSリーダー、メール、SNSなどをチェックしこれはと思うネタをストックし、その中から選んで記事にしています。図書館関係だけでなく公的機関、IT関係、また、海外の情報源まで、各自様々な方法で情報を追います。ツールを複数使うのは効率が悪いし、ある意味「きりがない」仕事ですが、効率優先だけではいいネタが集まりません。

記事の選択に当たっては客観性やニュース価値を重視し、人により見解が分かれる情報や、事件性のある話題などを扱う際は特に注意を払います。新しくて興味を引くような情報でも、情報源などを調べて信頼性に欠けるとされる場合は記事にせず、また、内容だけでなく背景まで調べてもよく分からない場合には、その分野について詳しい方に質問したりしています。

企業の方からもしばしば情報を頂きありがたく思いますが、一企業の宣伝になると判断したものは記事にせず、情報提供の御礼とともに掲載の有無についてはこちらに一任いただくよう



連絡することもあります。

一見図書館とは関係ない時事のニュースや雑談が役に立つこともあります。たとえば米国大統領選では、トランプ次期政権の政策に関して米国図書館協会が発表したブリーフィングペーパーについて逃さず記事にすることができました。また、ゲームソフトの取扱説明書がデジタル化・公開された話題も取り上げ、注目を集めました。係員それぞれが個性や趣味、興味を生かして情報を収集・選択し執筆しており、「カレントアウェアネス-R」の内容の厚みにつながっています。

こうした記事が注目を集めたりSNSで言及されたりしているのを見ることは、この仕事の楽しみでありプレッシャーでもあります。SNSが身近になり発信される情報が爆発的に増大するなか、情報を網羅的に把握するには時間が足りず、未読の山を横目に焦燥感にかられながら今日も一日が終わります…。

(図書館協力課調査情報係 Akāsa)

数字で見る 国立国会図書館

『国立国会図書館年報 平成27年度』から

『国立国会図書館年報 平成27年度』をもとに、
国立国会図書館の業務、サービス、組織に関する
おもな数字を抜粋しました。

(総務部総務課)

※数字は平成28年3月31日現在(平成27年度の実績)

国会へのサービス
依頼調査回答

4万993件

国会議員等からの依頼に基づき、国政
課題や内外の諸事情に関する調査、法
案の分析・評価などを行っている。

行政・司法支部図書館へのサービス
貸出7022点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に
支部図書館が設置されている。この図書館ネットワーク
をもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

国立国会図書館年報
平成27年度



『国立国会図書館年報』は、ホームページでもご覧になれます。
国立国会図書館ホームページ>刊行物>国立国会図書館年報
<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

一般へのサービス

■ 東京本館
■ 関西館
■ 国際子ども図書館

来館者

72万 2062人

■ 55万 3800人
■ 6万 8881人
■ 9万 9381人

見学・参観

6931人

■ 3383人
■ 1885人
■ 1663人

見学の申し込みは本誌表紙裏参照。

レファレンス・サービス

84万 1112件

■ 75万 1482件
■ 7万 6315件
■ 1万 3315件

口頭、文書、電話により回答する。

図書館等への貸出

2万 698点

■ 6064点
■ 2594点
■ 1万 2040点

図書館への貸出し、小中学生向けの学校図書館セット貸出し、展示会に出品するための貸出しがある。

閲覧

225万 9227点

■ 213万 3029点
■ 10万 3054点
■ 2万 3144点

来館して申し込む閲覧サービス。

来館複写申込

124万 9042件

■ 114万 5387件
■ 9万 8866件
■ 4789件

来館して申し込む複写サービス。

遠隔複写申込

25万 6938件

■ 12万 8544件
■ 12万 7615件
■ 779件

来館せずに、ホームページ等を通じて申し込む複写サービス。

職員数

888人

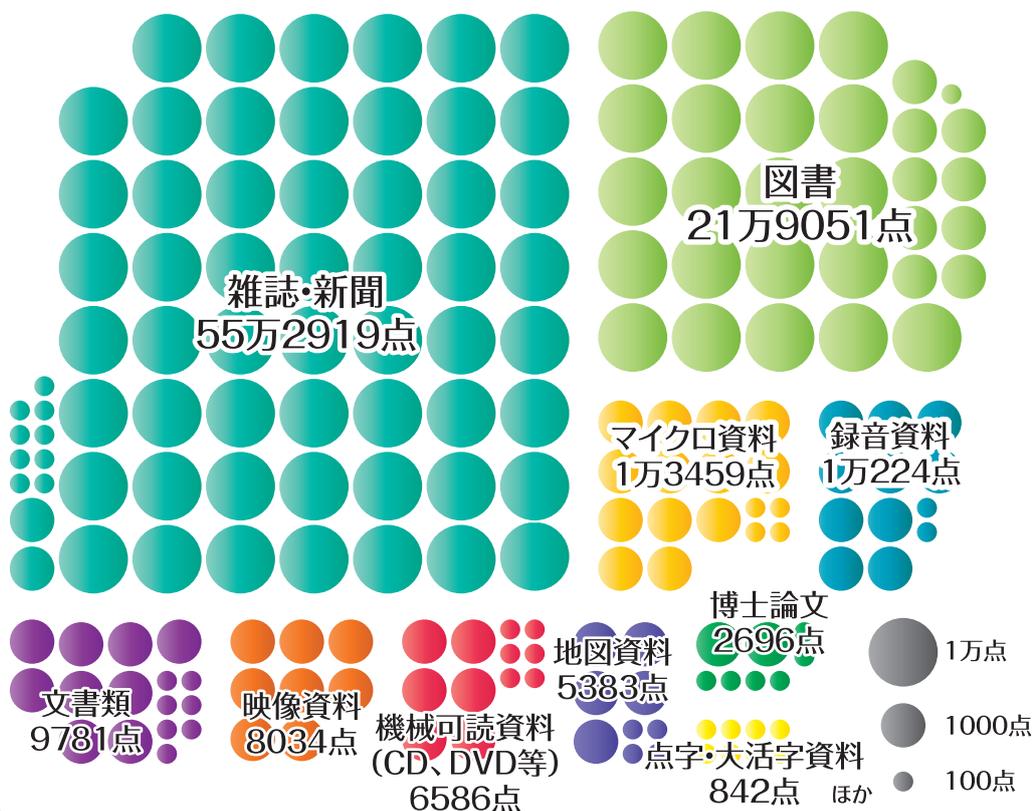
男性 50%
 女性 50%

専門調査員・管理職のうち女性の割合約 33.3%

	建物延べ面積	書庫面積	閲覧室面積
	22万 1256㎡	10万 5695㎡	2万 5864㎡

■ 東京本館	14万 7853㎡	7万 8046㎡	1万 8983㎡
	国会分館 1331㎡	609㎡	562㎡
■ 関西館	5万 9311㎡	2万 3926㎡	4265㎡
■ 国際子ども図書館	1万 2761㎡	3114㎡	2054㎡

年間受入点数 83万1184点



資料収集のための費用
約 23 億 3176 万円
うち、納入出版物代償金
約 3 億 9025 万円

館全体の予算・決算
歳出予算現額
約 221 億 7415 万円
決算額
約 213 億 9349 万円

書誌データ作成 60 万 3232 件

図書	17 万 2813 件
雑誌・新聞	3424 件
(データ更新 (改題など))	1 万 1766 件
非図書資料	6 万 435 件
雑誌記事索引	36 万 6560 件

書名、著者名、所在情報などの書誌データ、日本の出版物の記録である全国書誌を作成し、ホームページを通じて提供している。

デジタル化資料の提供数

インターネット 50万9139点
館内限定 204万1830点
図書館送信 約142万点

江戸期以前の和漢書および1968年までに刊行された図書等の本文デジタル画像等。



デジタル化
9万7852点

ホームページへのアクセス
1875万4491件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等の各種データベース、調べものに役立つ情報などが利用できる。

国立国会図書館サーチで
統合検索できる書誌データ
8562万5336件

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された画像・音声等の様々な形態の情報を検索。

所蔵点数 4188万1649点

図書
1075万1931点

マイクロ資料
912万592点

雑誌・新聞
1703万4573点

地図資料
56万3282点

文書類
38万4944点

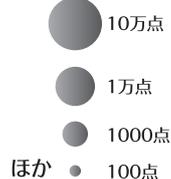
博士論文
59万2392点

録音資料
71万5341点

映像資料
31万6907点

機械可読資料
(CD、DVD等)
13万7636点

点字・大活字資料
3万6321点



お知らせ

■ 平成28年度東日本大震災 アーカイブ国際シンポジウム ー震災から6年経過した震災 アーカイブの進化と深化ー



アンドルー・ゴードン氏

国立国会図書館は、東北大学災害科学国際研究所との共催により、平成29年1月に東北大学災害科学国際研究所多目的ホールにて、東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、発災直後から東日本大震災を対象としたアーカイブを構築したハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所のアンドルー・ゴードン教授の特別講演のほか、最新の震災アーカイブの事例報告等を行います。

参加費は無料です。ぜひご参加ください。

○日時 平成29年1月20日（金）13:00～16:30（開場：12:30～）

○会場 東北大学災害科学国際研究所多目的ホール（定員200名）

（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

仙台市営地下鉄青葉山駅下車 南出口徒歩5分）

○プログラム

【特別講演】 ※講演は日本語で行います。

「参加型デジタルアーカイブの可能性」

（ハーバード大学歴史学教授、エドウィン・O・ライシャワー日本研究所
JDArchiveプロジェクトディレクター アンドルー・ゴードン氏）

【報告】

「震災遺産を保全する（ふくしま震災遺産保全プロジェクト）」

「福島原子力事故関連情報アーカイブ(FNAA)について」

「ウェブサイトを保存するー国立国会図書館インターネット資料収集保存事業
(WARP)」

「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」

「近年の震災アーカイブの問題点と解決方法について」

「熊本地震におけるデジタルアーカイブ構築への課題と利活用の検討」

【パネルディスカッション】

○申込方法 「みちのく震録伝」(<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp>) 掲載の
シンポジウム案内からリンクしている「参加申込みフォーム」にて
お申し込みください。定員に達した時点で受付を終了します。

○問合せ先

東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野
電話 022-752-2099 メールアドレス archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

※シンポジウムの詳細については、「みちのく震録伝」ホームページをご覧ください。

お知らせ

■ 音楽・映像資料室と電子資料室を統合します

東京本館新館1階の音楽・映像資料室と電子資料室を統合し、平成29年1月5日（木）から、新しい資料室を開室します。機器利用を伴う多様な資料を提供します。

新資料室の室名は「音楽・映像資料室」、場所は電子資料室の跡地です。

新資料室では、これまで両室で扱っていた、録音資料、映像資料、楽譜、手稿譜及びその関連資料、脚本、電子資料（CD-ROM、DVD-ROM等）、図書組み合わせ資料、音楽分野の参考図書等がご利用いただけます。

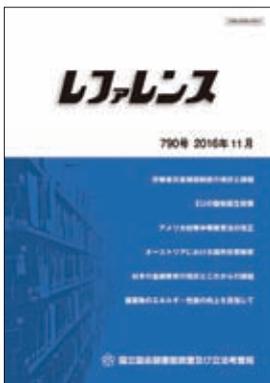
閲覧時間は、東京本館の開館時間（月～金曜日 9:30～19:00、土曜日 9:30～17:00）と同じです。統合前の音楽・映像資料室は月～金曜日は17:00で閉室していましたが、統合により19:00までご利用いただけることになりました。

新館略図



お知らせ

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 790号 A4 144頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会
労働者災害補償制度の現状と課題

EUの動物衛生政策—動物衛生法(規則2016/429)を中心として—
アメリカ初等中等教育法の改正—教育における連邦の役割—

オーストリアにおける国民投票制度

日本の金融教育の現状とこれからの課題—各国との比較を通じて—

建築物のエネルギー性能の向上を目指して—日本とEU(ドイツ、英国)の取
組—

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

C O N T E N T S

- 02 New NDL mid-term vision “Universal Access 2020”
- 04 <Book of the month - from NDL collections>
Medieval time of Japan shown in writings on the reverse side of pieces of paper
-newly discovered materials related to Hachijō In
- 06 Strolling in the forest of books (15): Sanada Yukimura - the eternal hero
- 10 Conservation of Western Historical Materials
Report of the course for librarians on Conservation of Western Historical Materials hosted by
the Center for Historical Social Science Literature, Hitotsubashi University
- 17 Travel writing on world libraries:
University of Washington Libraries
- 26 The NDL in figures
- 16 <Books not commercially available>
○*Hon o irodoru hanga zōshohyō o aishita otoko:
Shūshūka harano kenkichi no kiseki*
- 25 <Tidbits of information on NDL>
Behind the scenes of “Current Awareness-R”
- 30 <Announcements>
○International Symposium on the Great East Japan
Earthquake Archive FY 2016: “Advancing and
deepening Disaster Archives six years after the
earthquake disaster”
○Audio-Visual Materials Room and Electronic
Resources Room integrated
○Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 29 年 1 月号 (No.669)

平成 29 年 1 月 1 日 発行

発行所 国立国会図書館

編集者 秋 山 勉
責任者

印刷所 株式会社 丸井工文社

〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
電 話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『新版引札見本帖 第1-4』から
[出版者不明] [明治36 (1903) 年]
26 × 37cm
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1682622/103>

国立国会図書館月報

平成29年1月1日発行 (毎月1回1日発行)
(1月号通巻669号)